四国新聞　平成26年11月7日(金)

香川の医療最前線 212

四国こどもとおとなの医療センター・循環器内科医長　竹谷善雄氏

心臓・血管疾患

進むカテーテル治療

動脈硬化の早期発見を

動脈硬化は気付きにくいため、「沈黙の殺人者」と言われている。高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病や喫煙は動脈硬化を進行させ、治療が遅れると、脳梗塞や心筋梗塞などを引き起こす。動脈硬化が原因となる心臓疾患や血管疾患の診断、治療法について、四国こどもとおとなの医療センター循環器内科の竹谷善雄医長に聞いた。

―狭心症や心筋梗塞の症状は。

心臓の動脈で硬化が進むと、血管に狭窄を生じ、狭心症や急性心筋梗塞を発症する。安定狭心症はゆっくり進行し、運動時だけ胸痛がある。しかし、不安定狭心症や急性心筋梗塞は動脈硬化で血管の傷んだ部位に血栓が発生し、急激な血管閉塞を来す。これは急性冠症候群と呼ばれ、命に関わることが多い。普段は健康だと思っていても潜在する動脈硬化があれば、喫煙やストレス、過労などの影響から突然発症する。持続する胸痛が特徴で、躊躇せず救急車を呼んでほしい。

―治療方法は。

検査は外来でできて簡便だが、狭心症の一種の冠動脈攣縮性狭心症の診断は困難だ。胸痛がある場合はカテーテル検査を勧める。手の血管から検査でき負担も軽減している。当院は1泊2日で検査している。

―早期発見には。

心筋梗塞は発症前の診断が困難だが、狭心症は早期発見が可能。心電図や心臓エコー、血液検査など外来検査での診断率は残念ながら高くない。動脈硬化による血管の異常を直接評価できないためで、冠動脈CT検査や心臓カテーテル検査が必要となる。冠動脈CT検査結果の重症度に応じて、バイパス手術、カテーテル治療、内服薬治療に分かれる。当院では、心臓血管外科と協議して患者に最適の治療法を提案している。カテーテル治療は進歩しており、以前ならバイパス手術が必要だった重症例でも可能な場合がある。カテーテル治療を選んだ場合は可能な限り手首の血管で行い、負担の少ない治療を心掛けている。

―心臓以外の動脈硬化については。

特に問題となるのが脳血管、腎動脈、下肢動脈。腎動脈は硬化が進むと、腎不全の原因となったり、高血圧の一種である腎血管性高血圧を起こしたりする。下肢動脈で硬化が進めば、歩行時の下肢痛、下肢の冷感の原因となるほか、重症の場合は足の壊死を引き起こす。これらは診断が難しいケースがあり、動脈硬化を想定して検査する必要がある。動脈硬化リスクの高い患者は、全身の硬化を見逃さないよう検査を徹底している。腎動脈も下肢動脈もカテーテル治療が可能だ。

―カテーテル治療のメリットとデメリットは。

メリットは入院が短いことだ。デメリットは病状次第で複数回の入院が必要なことだ。また、ステントと呼ばれる金属性の血管補強材を植え込んだ場合は、抗血小板剤を長期間服用する必要もある。

―今後の課題は。

高齢になっても元気で過ごすためには早期発見、予防が大事だ。動脈硬化の可能性を指摘されたら、循環器内科を受診してほしい。

50代男性患者の心筋梗塞症例画像（左矢印は閉塞部、右はステント治療後で改善している）

◆たけたに・よしお　1995年徳島大医学部卒。徳島健生病院、相模原協同病院、徳島大付属病院を経て2013年4月から現職（循環器病センター長）。日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医。徳島県出身。49歳。

■四国こどもとおとなの医療センター循環器病センター

昨年5月の開院以来、1年間のカテーテル検査件数760件、カテーテル治療件数170件、ペースメーカー植込術60件、不整脈検査・治療25件。常勤医5人。

所在地：善通寺市仙遊町2―1―1

電　話：0877（62）1000

http://www.shikoku-med.jp/